鶴田一郎 表紙コレクション

ICHIRO・TSURUTA

2月号

この1年。「風」の表紙は、ほとんど自由に描かせて頂いて、とても楽しかったですね。広報誌っていうから、僕の絵なんか使って大丈夫なのかなと思いましたけど…。どうしても堅い感じが頭から離れなくて。それで、はじめの方は、公のイメージを出して多少無難な線を狙ったんです。

その後、熊本へ帰ってきて、県内を回ってみました。僕は天草出身で、あまり天草から出たことがなかったから、熊本といっても実はほとんど知らなかったんです。菊池渓谷とか黒川温泉とか、熊本には僕も知らなかったいろんな面が隠されていましたね。それからは、本当に自由にやらせて頂きました。熊本がより身近になったという感じです。

●

1年間描いていくうちに、今までの女性画と根本的に少し違うものが生まれてきたような気がするんです。もっと奥行きを感じさせる何かが…。僕のテーマの女性画に、もう1つ新しい流れができましたね。

イラストレーターとしてスタートした頃は、リアルな絵を描いていました。その頃、スーパー・リアルの全盛だったので…。でも続けていくうちに、オリジナリティのある絵が描けなきゃダメだと分ってきたんです。それで女性画を描きはじめました。実は中学生のときから描いていて、ライフ・ワークのようにもなっていましたし…。そして、自分のイメージの女性を描き続けていくうちに、今のような〝女性〟になっていったんです。

とにかく、自分がいいというものを追っかけるのがいちばんいいと思うんです。

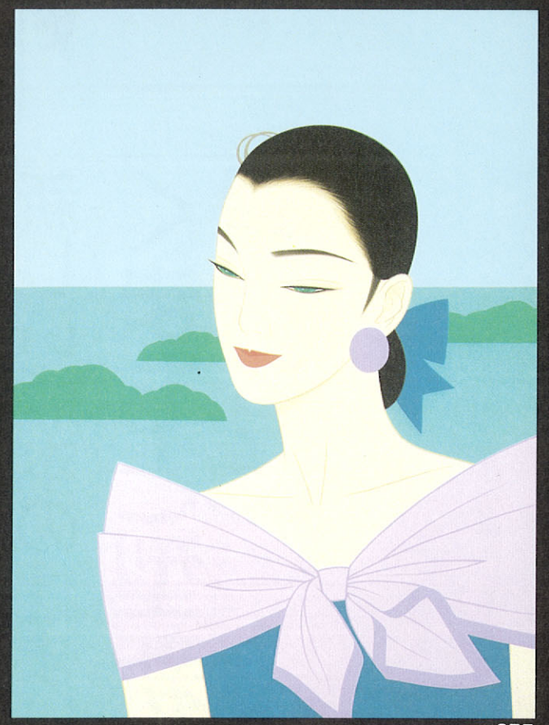
●

僕のバックボーンは、あくまで熊本にあるんです。いつかは熊本に帰る―ずっとそんな意識が根底にある。ところが、僕はまだ熊本で個展もしたことがない。とりあえず、個展を開きたいですね。そして、これからも、ずっと熊本と係わっていきたい―それが僕の夢でもあるし、希望でもあるんです。

鶴田 一郎プロフィール

1954年本渡市生まれ。県立天草高校を経て多摩美術大学グラフィック・デザイン科へ進む。卒業と同時にフリーのイラストレーターとして、SFやミステリー小説の表紙やレコードジャケットなど堅実な制作を続けてきた。数年前より美人画を手がけ、一昨年の春、ノエビアのポスターで一躍脚光を浴びる。

cover collection

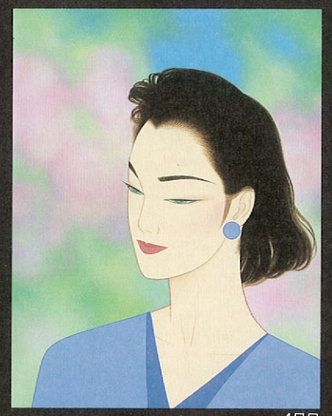


6月号

8月号

10月号

12月号



4月号